

日本経済新聞

夕刊

7月7日
(土曜日)

発行所 日本経済新聞社
東京本社 〒100-8066 (03)3270-0251
東京都千代田区大手町 1-9-5
大阪本社 〒540-8588 (06)8943-7111
大阪府中央区大手前 1-1-1
名古屋支社 〒460-8366 (052)243-3311
名古屋市中区栄 4-16-33
西部支社 〒812-8666 (092)473-3300
福岡市博多区博多駅東 2-16-1

中部を彩る

ファイナンシャルプランナー 佐々木 元司さん (44歳)



「お金を使い過ぎると、欲しいものが買えなくなるかもしれないよ」。仮想のお金と小遣い帳を手にする子供に語りかける。日曜の午後、名古屋・栄のビルで開かれたお金にまつわる知識を身に付ける「ラクガクセミナー」の一コマだ。

参加したのは小学三年から中学三年の子供。おもちゃの紙幣と小遣い帳を手にした子供は、買い物コーナーでサイコロを振り、目に従った条件で買い物をするかどうか判断する。勝ち負けはない。金を使い過ぎれば買えるものは減り、金をため過ぎていと欲しい物が手に入らない。そんな道理を体感する。

「自分の子供が、どうお金をやり繰りしていくか、見てほしい」とセミナー

お金やり繰り 親子に伝授

ナーは、保護者の同伴が原則だ。ゲーム終了後は親だけを集めて座談会を開く。「小遣いはいくらに設定すればいいのか」「手伝いや勉強を条件に小遣いを与えて失敗した」。それぞれの家庭の様子を話し合う。

生命保険会社の保険相談が本業。顧客に生涯の資金計画を示しながら、保険を設計し販売につなげる。結婚して娘二人が生まれたのを機に「自分の仕事を子供たちに還元できないか」と考えるようになった。

「子供たちがお金のやりくりを学ぶ場を地元でつくりたい」。思いは福武純子さん、近藤妙子さん、服部江利子さんという名古屋近郊の女性ファイナンシャルプランナーと「ラクガクくらぶ」を

2人の娘にも小遣い帳

一九六二年、岐阜県恵那市生まれ。八一年に県立恵那高校卒業、八五年に静岡大人文学部を卒業し、製薬会社入社。九四年に生命保険会社へ転職。一級ファイナンシャル・プランニング技能士などの資格を持つ。

小学生の娘二人の小遣いは月三百円と同百円とし、小遣い帳を渡した。「あれ買って、これ買って」と言うことは少なくなったけど、計画性が身に付いたとはまだ言えない」と苦笑する。

二〇〇四年に設立する「教育」に抵抗を覚える人々とで実現する。

セミナーは二カ月に一回のペース。仮想のお金は自分たちで作り、小遣い帳は金融広報中央委員会が無料配布している冊子を配る。手作りのゲームで、金を「使う」「たもつ」という体験をする。こだわりたいのは親の同伴だ。目指すのは「お金のやり繰りの大切さを親子で話し合える環境」づくりだ。

開始から二年余り。「子供会や学校、塾などから幅広い呼びかけに応えたい」と話すが、「金銭

文 南毅
写真 柏原敬樹